

◎ 「八王子城跡碑」(松木曲輪)

大正八年晚秋

(題字) 宮中顧問官正三位勲一等子爵 北条氏恭 篆額

(文章) 従三位男爵 中山信実 撰

(書) 八王子市長勲七等 柴田栄吉 書

八王子城は北条氏照の肇築する所なり。氏照は陸奥守と称す、氏康の子、氏政の弟なり。初め滝山城を治む。元龜三年(1572)、神護寺山に築き居をここに移し、八王子城と称す。城は甲相の險を扼し関東の名城なり。氏照、勇武絶倫、父兄を補佐し屢甲越と争う。天正十八(1590)豊臣秀吉、大挙氏政攻む、氏政八州諸城の将士を小田原城に聚め以って之を拒ぐ。氏照亦入る、秀吉、焉(之)を圍み月餘にして未だ下ならず。乃ち上杉影勝、前田利家をして別軍率い諸城を攻めしむ。諸城或いは降り或いは奔り敢えて抗する者なし。六月、二将、兵一万五千を以って暁霧に乗じ八王子城を襲う。城兵僅かに数千、留守の横地監物、近藤助実、金子家重、狩野一庵及び曩祖(先祖)勘解由、君諱(生前の本名)家範、陰に據りて善く拒ぐ。而るに衆寡敵せず、助実、家重、一庵等奮戦して之に死す。監物、遁走して土人に殺さる。独り君城を嬰(マモ)の健闘、刀折れ矢盡き士率皆斃る。利家、望見して之を壮とし人を

遣わし降を諭す。至れば則ち君既に刃に伏す。夫人も亦殉ず城の陥おちるは実に月の廿三日なり。利家、惋惜わんせき（なげきおしむ）して措かずと云う。文禄中（1592）～1595）徳川氏、城下の民を横山邑に移して八王子と稱し、舊地に冠するに元字を以てす。爾後三百年、新街殷盛いんせい、舊地、日に微にして城址も亦寒烟かんえん（さびしく）荒草の中に埋没す。頃者、邑人之を慨なげき碑を樹たて不朽に伝えんと欲し文を予に属す。予、今日、采爵さいしやくを辱かたじけなくするは祖宗遺烈の賜なり。乃ち国史を按あん（調べる）じ家乗かじゆり（家の記録）を参して其の梗概けいがい（あらまし）を叙し繫けい（つなぎとめる）するに銘を以てす。曰く、

神山みやま嶺しん峯ほう（高く険しい）。 艸木そうぼく自ら靈あり。

碧血へきけつ（忠誠心の意味）凝こる所。 桜花おうげ永えに馨かんぼし。

撰文中山信実は中山勘解由家範の末孫。

篆額北条氏恭は北条氏康の後裔。